



立谷沢で暮らす 未来のはなし

これまでも
これからも
助け合いながら
自分たちで創る暮らしのかたち

令和7年度▶令和11年度版
立谷沢地区第二次地域行動計画



もくじ

1. 現状と課題	1
- 立谷沢男女別年齢別人口（グラフ）	2
2. 立谷沢まちづくり住民アンケート結果の概要	3
- 満足度 × 重要度（相関図）	4.5
3. 具体的提案整理票	6.7
4. おわりに	8
5. 立谷沢地区第二次地域行動計画策定の歩み	9

立谷沢地域行動計画の策定にあたって



清流の里立谷沢
会長 長南 進

平成 31 年度に「立谷沢地区振興会」が中心となり、第一次地区計画書を策定し地域振興、青少年育成事業等に取り組んできました。

地域運営組織「清流の里立谷沢」は令和 5 年 10 月に発足し、令和 6 年 4 月から庄内町の指定管理者としてスタートいたしました。

先の地区計画書は令和 5 年度までの取り組みであったことから、令和 6 年 7 月に立谷沢地区第二次地域行動計画策定委員会を立ち上げ、「立谷沢まちづくり住民アンケート」調査を行い、地域住民の抱えている問題と課題を整理し、解決に向けた取り組みにより、安心して明るく活気ある生活ができる立谷沢を目指せるよう次なる「地域ビジョン」を策定いたしました。

また、庄内町でも将来を見据えた第三次総合計画基本構想を掲げ、一人ひとりが幸せを実感できるまちづくりに取り組んでいくことから、町との連携を強化しながら地域の活性化を図っていきたいと思います。

より良い立谷沢の地域づくりを進めるため、住民の皆さまからの積極的な参画と一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 7 年 9 月

1. 現状と課題

立谷沢地区は庄内でも有数の豪雪地帯であり、除雪対策が常に一番の課題に挙げられてきました。

また、第一次地区計画当時に比べさらなる少子化が進み、若者を中心とした近隣市町への世帯数、人口流出が加速しております。

そこで、中学生以上の住民を対象に「立谷沢まちづくり住民アンケート」を実施し、第二次地域行動計画策定委員会でのワークショップ等による、新たな現状分析と課題整理を行い、それらの対策を次のようにまとめました。

安全に暮らすために

1. 鳥獣被害対策
2. 除雪対策
3. 自然災害対策
4. 住民全員の防災・防犯意識の向上
5. 空き家対策・移住促進

自然環境を守り豊かにするために

1. 自然環境の保全

地域を担う人材育成のために

1. 農業等の後継者育成と地域資源を活かした新しい産業の創出
2. 地域運営組織コーディネーターの確保と育成
3. 自治組織の再編と住民男女共同参画の検討

健康に暮らすために

1. 多様なつながりによる介護予防と心と体の健康維持
2. 運動の習慣化

便利に暮らすために

1. 地域で安心して暮らせる支援体制づくり

後世に伝えるために

1. 地域の文化や知識・技の伝承

世代間を超えた交流を行い、みんなが活躍する地域づくり

1. 立谷沢ブランドの確立
2. 交流の促進

1. 現状と課題

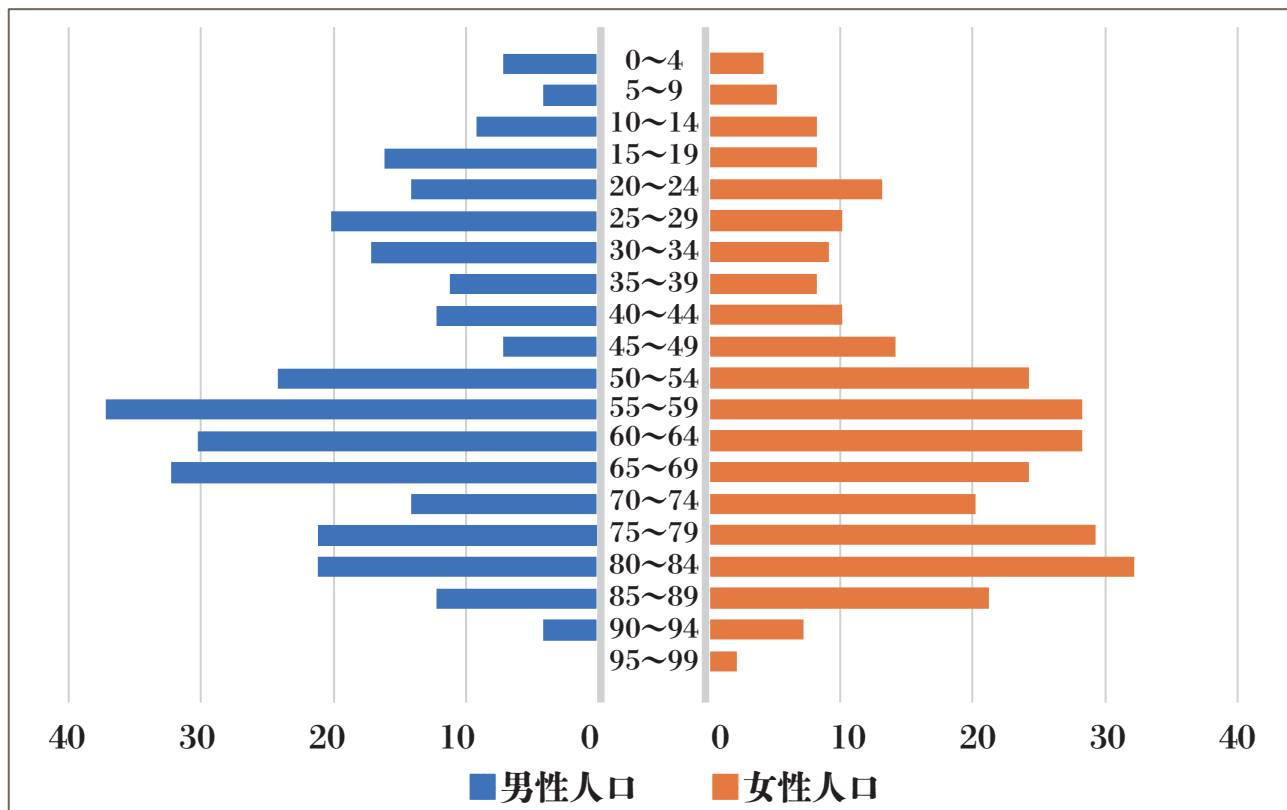
- 立谷沢男女別年齢別人口（グラフ） -

平成 27 年 4 月 1 日

立谷沢の人口 616 人

高齢化率

38.8%

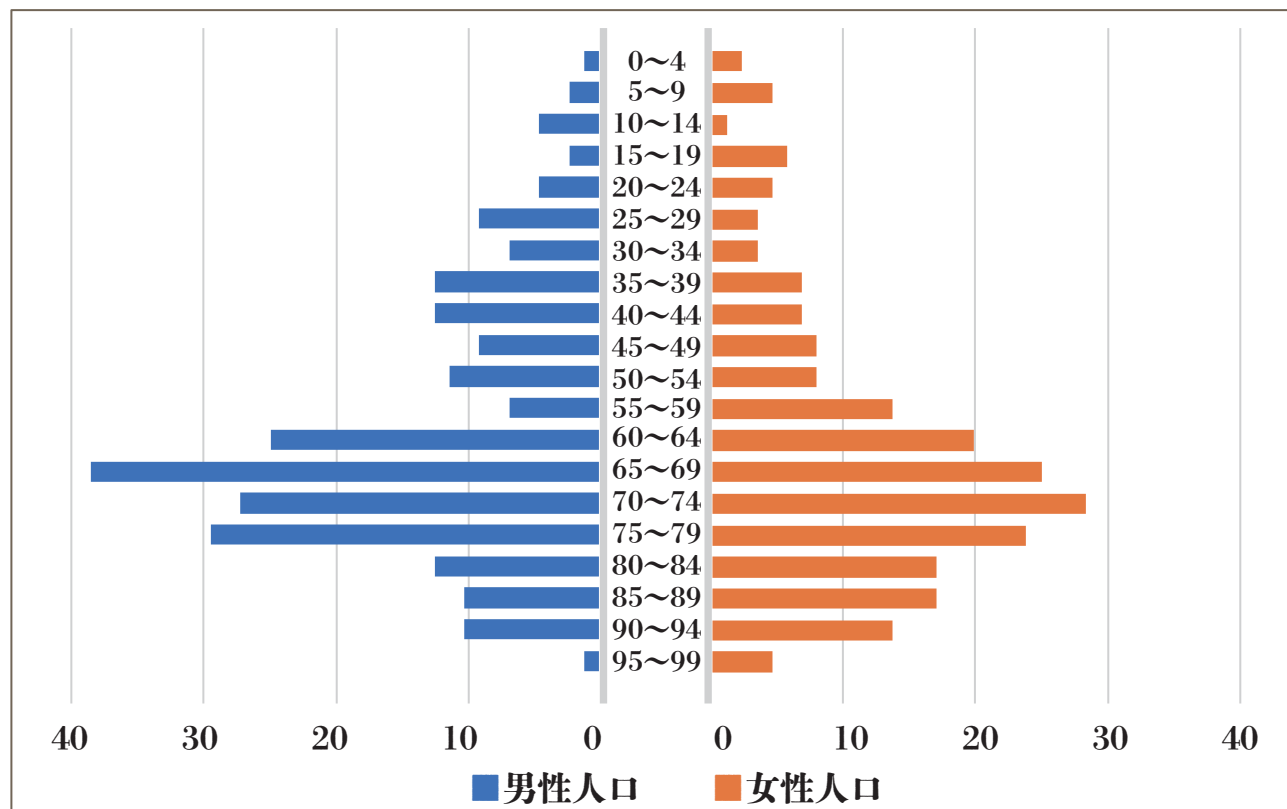


令和 7 年 4 月 1 日現在

立谷沢の人口 402 人

高齢化率

56.7%



10 年で人口 214 人減 ↓ 高齢化率 17.9 ポイント増 ↑

2. 立谷沢まちづくり住民アンケート結果の概要

令和6年7月に実施した「立谷沢まちづくり住民アンケート」の結果、立谷沢地域が抱える問題の中で、深刻であり地域の活力を高めるために最も必要と思うことが、除雪対策、雇用の場、交通の便、人口減少が上位に挙がっています。

そのことから、雇用の場が少なく通勤時間の長さや、冬季間の降雪量の多さが人口減少の要因という結果が読み取れました。

主な意見は次の通りです。

- 主な意見 -

■立谷沢地域に生涯、住み続けたいという気持ちや考えがあるか

▶ある 半数以上

主な理由：住み慣れた場所であり家を守りたいから

▶ない

主な理由：冬の生活が大変だからと交通が不便だから

■お子さんがいる方でお子さんが立谷沢地域に住むことを望むか

▶望まない 半数以上

主な理由：冬の生活が大変だからと交通が不便だから

■今後、立谷沢に住み続けるには、地域をどのようにしたら良いか

▶移住者をたくさん受け入れる、空き家対策

▶米以外の農産物、山菜等のネット販売

▶山林を活かした産業、特産物をつくる

▶スーパーやコンビニ、買い物ができるお店が必要

▶若者を地域につなげるために雇用の場を作るなど

■今後、立谷沢の問題解決のためにどのような活動が必要か

▶地域外の人にも来なくなる催しの開催やイベント、立谷沢が有名になるようなお祭りを作る

▶キャンプ、野外コンサート

▶雪下ろしボランティア活動など

■その他、自由欄

▶イベントの発信をラインやインスタグラムなどで教えてほしい

▶冬季間の除雪は朝6時30分くらいには終わってほしい、大雪の時は夜7時以降に除雪してほしい（帰りが遅いので）

▶立谷沢から移転する人を止めることはできないし、それはそれでいいと思う

▶熊がいつ出るかわからないので子どもをのびのびと遊ばせることができない

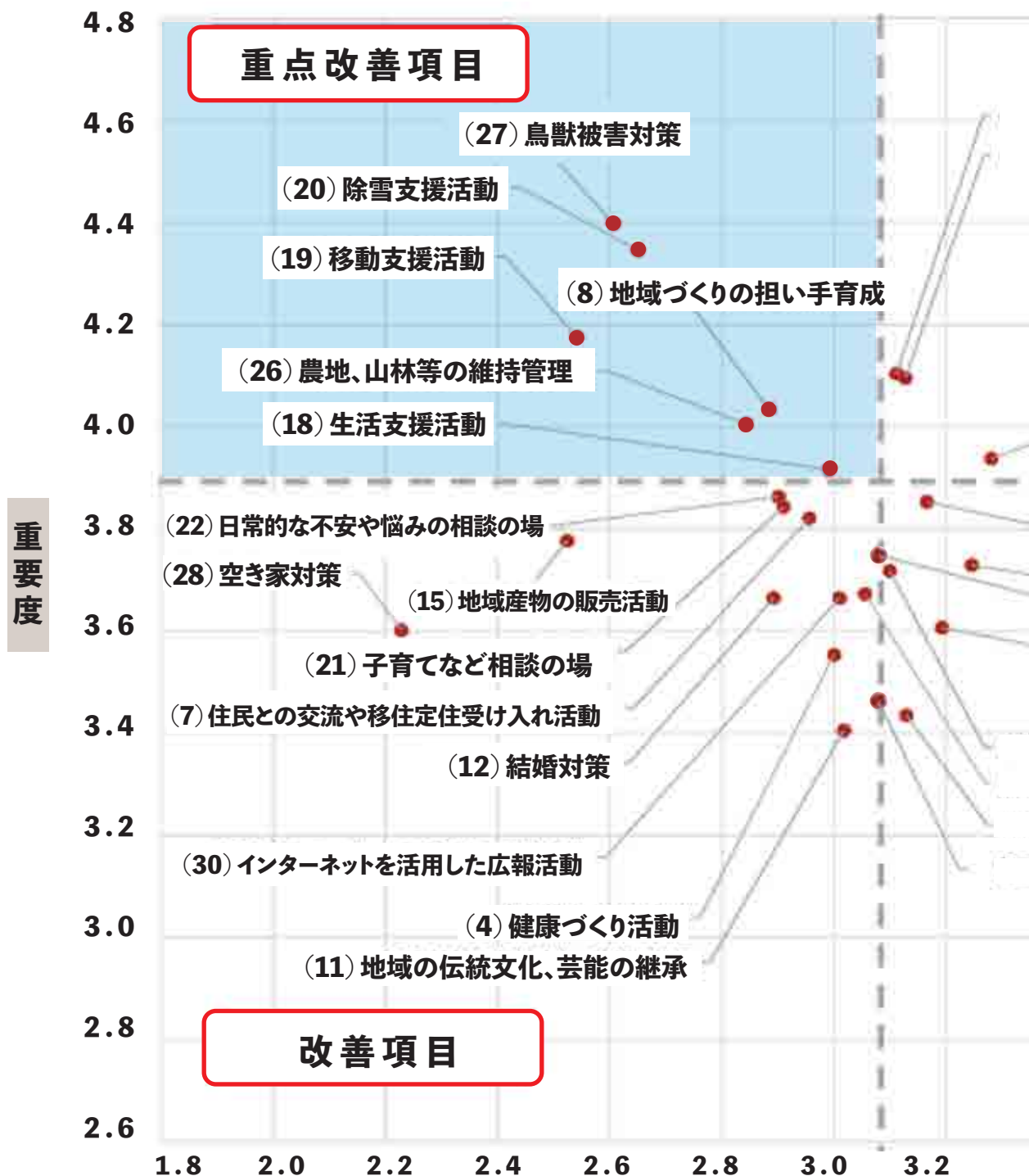
▶私にとって立谷沢が一番住みやすい

▶滅びの美学＝時代の流れに逆らわず、悪あがきせず、起きることすべてを認め、限界集落を楽しみ静かに見送ろう 等

2. 立谷沢まちづくり住民アンケート結果の概要

- 満足度 × 重要度（相関図） -

この相関図は、立谷沢まちづくり住民アンケートで30項目の中から



満足度 × 重要度（相関図）の見方

【満足度】横軸

- 5 ⇨ 満足している
- 4 ⇨ やや満足している
- 3 ⇨ どちらともいえない
- 2 ⇨ やや不満である
- 1 ⇨ 不満である

としてアンケート回答の平均値を算出。

数値が高いほど、満足度が高いと思っ
ている方が多いという結果になります。

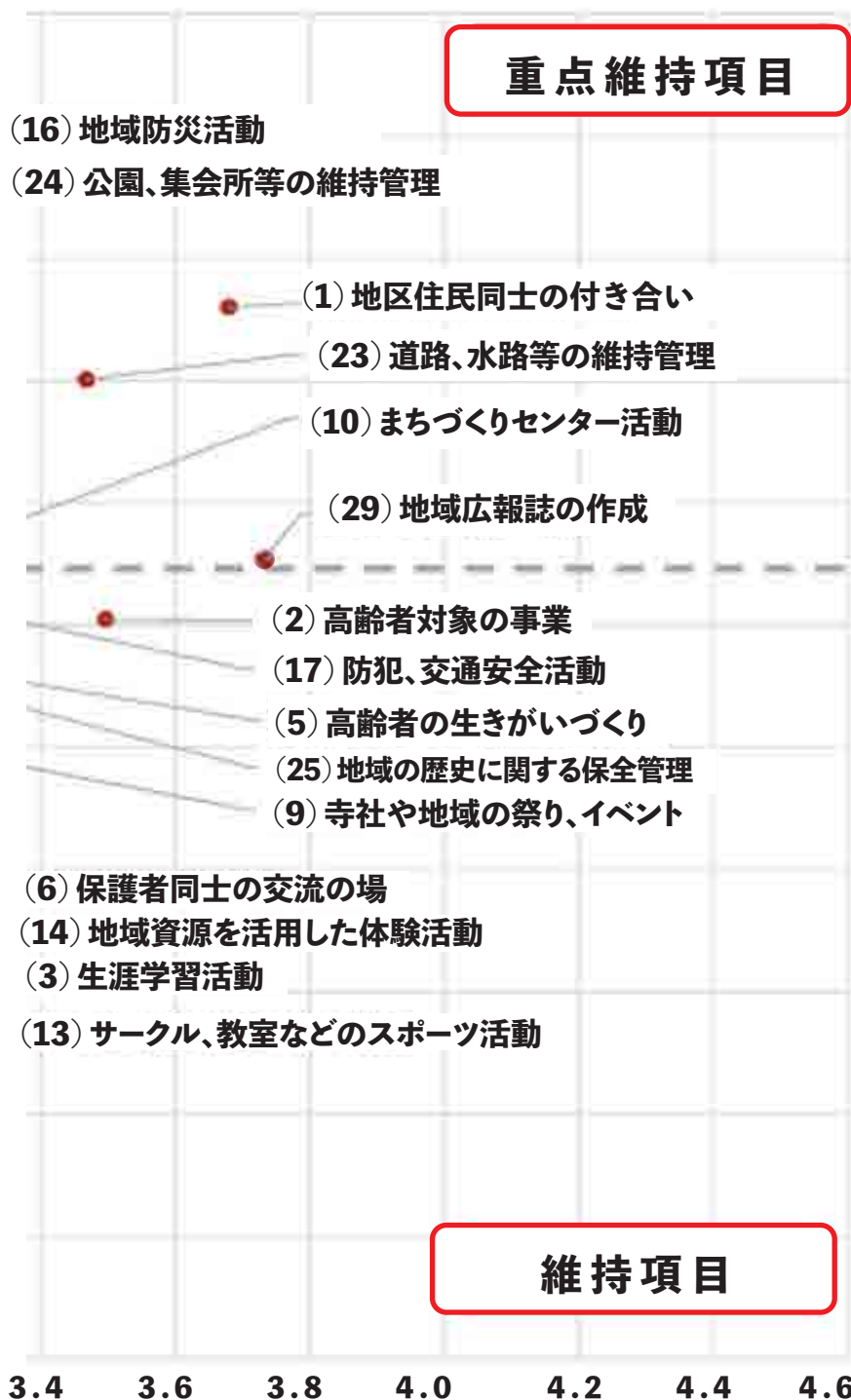
【重要度】縦軸

- 5 ⇨ 重要である
- 4 ⇨ やや重要である
- 3 ⇨ どちらともいえない
- 2 ⇨ あまり重要でない
- 1 ⇨ 重要ではない

としてアンケート回答の平均値を算出。

数値が高いほど、重要度が高いと思っ
ている方が多いという結果になります。

ら重要度・満足度の回答の平均値から作成しています。



【平均値】

全項目の平均値

満足度 3.03 重要度 3.86

【重点改善項目】

立谷沢地区の住民の皆さんが、平均よりも「重要と考えているのに満足していない」結果となった項目は、以下の6項目でした。

- 鳥獣被害対策
- 除雪支援活動
- 移動支援活動
- 地域づくりの担い手育成
- 農地、山林等の維持管理
- 生活支援活動

■左上の色付けしたところの重点改善項目＝重要度が高く満足度が低い項目で、総合満足度を上げるために最優先で改善しなければならない項目です。

■右上に位置したところの重点維持項目＝重要度が高く満足度も高い項目で引き続き満足度を下げないようにする必要があります。

■左下に位置したところの改善項目＝重要度が低く満足度も低い、総合評価の影響は少ないが満足度が低い項目で重点改善項目の次に改善を必要とする項目です。

■右下に位置したところの維持項目＝満足度は高いがあまり総合評価に起因していない項目で現状を維持すればよい項目です。

3. 具体的提案整理票

自分たちで創るこれからの暮らしのかたち

・自分たちでできること、誰かに頼れること、無理なく暮らしていくために、

担当	重点施策
自治防災・産業部会	安全に暮らすために
	1. 鳥獣被害対策
	2. 除雪対策
	3. 自然災害対策
	4. 住民全員の防災・防犯意識の向上
	5. 空き家対策・移住促進
	自然環境を守り豊かにするために
	1. 自然環境の保全
環境・福祉部会	地域を担う人材育成のために
	1. 農業等の後継者育成と地域資源を活かした新しい産業の創出
	2. 地域運営組織コーディネーターの確保と育成
	3. 自治組織の再編と住民男女共同参画の検討
	健康に暮らすために
	1. 多様なつながりによる介護予防と心と体の健康維持
	2. 運動の習慣化
交流・教育部会	便利に暮らすために
	1. 地域で安心して暮らせる支援体制づくり
	後世に伝えるために
	1. 地域の文化や知識・技の伝承
	世代間を超えた交流を行い、みんなが活躍する地域づくり
	1. 立谷沢ブランドの確立
	2. 交流の促進

参加できそうな事業があれば、積極的に参加しましょう！

できることから整理しよう！

主 な 事 業 内 容

協 力 団 体

- ①イノシシ、クマ、ハクビシンなどの被害の実態把握と駆除対策検討
- ②除雪等への地域での支援体制づくり
- ③危険箇所を知る（危険箇所マップ作成など）
- ④対策を学ぶ（防災学習会、避難マニュアル作成など）
- ⑤安否の確認（災害弱者への対応など）
- ⑥避難する（タイミング、ルート、避難場所）
- ⑦全集落に自主防災組織の設置と各集落で連絡体制の整備
- ⑧空き家の実態調査（現状把握）、空き家マップの作製
- ⑨移住者アンケートを実施し、空き家を活用した交流事業の開催を検討

集落・猟友会・庄内町
 農業者チーム・建設業者
 集落
 集落
 集落
 消防団・庄内町
 集落
 集落・庄内町
 集落・庄内町

- ⑩河川環境の保全
- ⑪農用地・森林の保全・林道の整備

振興会・保全会・集落役員
 集落・保全会・集落協定
 森林組合

- ⑫農業等に関わる人材確保とその育成
- ⑬地域資源、自然食を活かした加工を含む商品開発と販売促進
- ⑭地域づくり研修、移住者や地域おこし協力隊等との定期的な意見交換
- ⑮地域づくり組織の編成と若者や女性の意見が反映される意見交換の場をつくる

農家・農業委員会・JA
 タチラボ・有志・JA・集落役員
 集落・まちセン・庄内町
 まちセン

- ⑯高齢者の生きがいづくりと交流のためのいきいきサロンや居場所カフェの運営と活動支援体制づくり
- ⑰ウォーキングコースの検討と軽スポーツ大会を定期的に開催
- ⑱百歳体操を各集落で実施し、高齢者の健康とコミュニケーションの場を構築する

まちセン・有志
 まちセン
 振興会・集落

- ⑲ライドシェア制度の導入
- ⑳移動販売車の誘致、買い物・通院などの支援体制づくり
- ㉑日常生活に困難をきたす世帯等に対して、行政や地域の団体等と連携した生活支援体制づくり

まちセン
 まちセン・イグゼ
 集落役員

- ㉒地域づくり事業で他地域からの参加者に伝統技術等をPRする場をつくる
- ㉓各集落単位の伝統行事を広報等で紹介する

地域おこし協力隊・集落
 まちセン・集落

- ㉔地域ブランディングに関する研究会と実践活動（農業体験、笹巻体験、SNSによる情報発信、立谷沢ファン拡大）
- ㉕地域資源を活用し、収穫・加工体験などのメニュー開発
- ㉖交流ギャラリーを活用した世代間交流の居場所づくり
- ㉗歴史や文化に触れ自然体験等を通じた交流人口の増加

有志・タチラボ
 地域おこし協力隊
 タチラボ・地域おこし協力隊
 まちセン・集落
 まちセン・集落

4. おわりに

おわりに



立谷沢地区第二次地域行動計画策定委員会
委員長 富樫 豊一

立谷沢地区の皆様には日頃より地域活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。少子高齢化であり、人生百年と言われるように平均寿命がさらに伸びつつある時代を迎えて、中高齢者が人口の割合のほとんどを占める立谷沢。我々がこのまま年とともに生き延び人生を終えることはごく自然と思われませんが、若者世代とともに、これから先も次の時代を立谷沢で安心して暮らすために環境を整え、その道しるべを残すことが今後の立谷沢の限界集落の危機から救う我々の使命と感じ、2回目となりますが立谷沢地区地域行動計画策定委員会により地域ビジョンを作成しました。

この中では一次ビジョンで未解決な問題や新たに出た問題、あるいは今より快適な生活を送るための施策も打ち出しました。今後この計画を実行に移し、今より快適で暮らしやすい立谷沢地域創生に向け取り組んで参りたいと考えております。

ここに冊子の完成にあたり、ご尽力をいただいた関係者の皆様をはじめ、貴重なご意見や提案をいただいた地域の皆様に感謝を申し上げますとともに、これからも地域づくりにご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



5. 立谷沢地区第二次地域行動計画策定の歩み

令和 6 年

6 月 12 日 第 1 回地域行動計画策定委員会

7 月 2 日 立谷沢まちづくり住民アンケートを実施

対 象 者：立谷沢地区の 11 集落（瀬場、大中島、新田、工藤沢、科沢、木ノ沢、中村、鉢子、大平、松野木、肝煎）に住む中学生以上（148 世帯 / 377 人）

回収状況：回答 250 人（回収率：66.3%）

8 月 9 日 第 2 回地域行動計画策定委員会

9 月 12 日 第 3 回地域行動計画策定委員会

10 月 29 日 第 4 回地域行動計画策定委員会

11 月 20 日 ワークショップ：産業・住まい・防災・暮らしについて
講師 青木孝弘教授（東北公益文科大学）

12 月 19 日 ワークショップ：産業・住まい・防災・暮らしについて
講師 青木孝弘教授（東北公益文科大学）
長井市伊佐沢地区コミセン主任 富永千亜妃さん（オンライン）
オンラインで活動内容などの意見交換

令和 7 年

1 月 30 日 ワークショップ：産業・住まい・防災・暮らし まとめ
講師 青木孝弘教授（東北公益文科大学）

2 月 26 日 ワークショップ：安全に暮らす対策について

3 月 26 日 ワークショップ：健康に暮らす対策について

4 月 9 日 ワークショップ：稼ぐ対策、守る対策について

4 月 30 日 ワークショップ：伝える対策、便利に暮らす対策について

5 月 22 日 ワークショップ：生きがいの評価結果について・7つの主課題について・ビジョンとアクションプランについて

6 月 18 日 第二次地域行動計画書の内容報告と修正

7 月 24 日 第二次地域行動計画策定委員会（最終）



立谷沢でのこれからの暮らしについて他の地域を参考にしたりして、意見を出し合いました。これからがスタート！できることできないこと、どんどんアップデートしていきましょう！

ワークショップの様子



策定委員名簿

立谷沢地区第二次地域行動計画策定委員会

委員長 富樫 豊一

辻 豊一	齋藤 功	長南 朋子	伊計 麻衣子	長南 光枝
相馬 正良	相馬 志穂	富樫 一仁	瀬尾 淳太	志田 博喜
富樫 美恵	菅原 千鶴子	瀧 あつ子	長南 敬之	吉宮 茂
吉田 健一	小林 仁	小林 肇	小林 茂和	加藤 智広
菅原 一彰	川井 一美	富樫 史	阿部 一二三	



事務局 清流の里立谷沢

〒999-6607 山形県東田川郡庄内町肝煎字福地山本 53 番地 1

TEL : 0234-59-2211 FAX : 0234-59-2212